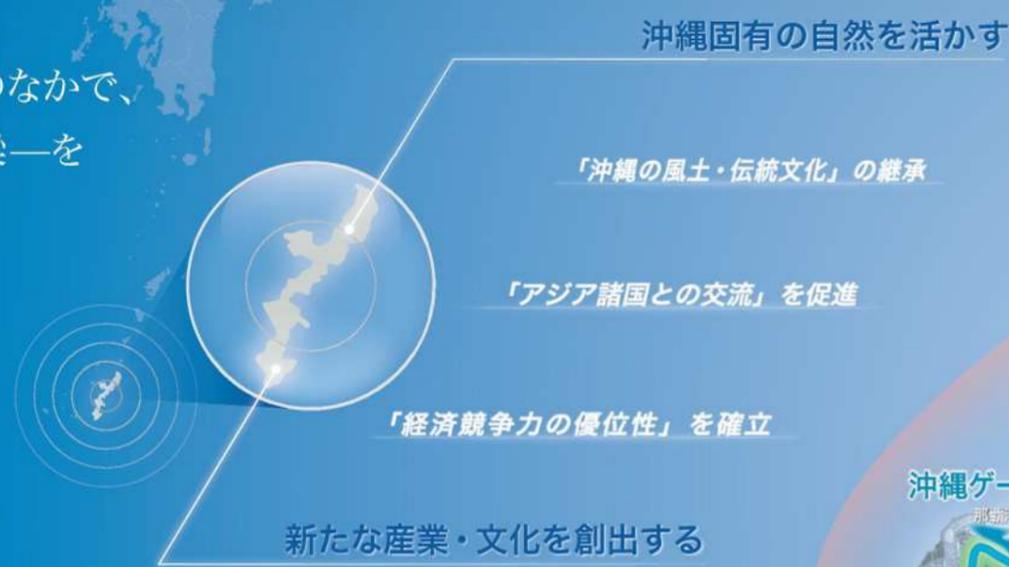


万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現

アジア諸国の重心に位置する沖縄は、かつてより、これら周辺諸国との交易のなかで、世界を相手に自立する精神—万国津梁—をつちかってきました。

21世紀に花開いた「アジアの時代」。沖縄の“固有の文化”、“豊かな自然”、“多彩な人材”を礎に—自立する交流展開の島—として生まれ変わります。



沖縄に対する課題認識

経済的な自立の必要性

- 第3次産業中心の産業構造の改善
- 「雇用機会の創出」と「失業率の改善」
- 付加価値産業の振興と県民所得の向上

中南部都市圏の環境改善

- 自動車依存からの脱却
- 那覇への一極集中の改善
- 基地による街の分断と密集市街地の解消
- 都市内の緑地空間の回復と充実
- エネルギー自給率の向上

沖縄のポテンシャル評価

- 琉球王朝による交易文化
- 東アジアにおける地理上の重心
- 都市部の広大な基地跡地の活用
- 国際空港と港湾が近接して立地
- 日本の数少ない人口増加地域

新しい沖縄の実現にむけた「3つのネットワーク」の構築

アジアの時代をリードする沖縄を実現するため、中南部都市圏の活力と魅力を高める3つのネットワークを提案します

都市ネットワーク

“4つの新都市拠点”を創る

- 各基地跡地の特性を活かし、4つの都市拠点を創出
- 広域行政中枢を普天間に集約し、自立する沖縄を象徴（リージョナルコア）
- 地権者ニーズや社会経済情勢を鑑み、計画的かつ柔軟な土地利用計画を推進

普天間を「リージョナルコア」とした多極連携型都市圏を形成し、沖縄の発展を後押しします

交通ネットワーク

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

- 国道58号線上へのLRTの早期実現とゆいレールとの連携強化をめざす
- 最先端テクノロジーによる高頻度運行の実現など、使いやすいLRTの導入
- フィーダー輸送の充実により駅勢圏が拡大することで、利用者の利便性が向上

沖縄の顔となるLRTを軸にモーダルシフトし、都市拠点の相互移動の利便性を高めます

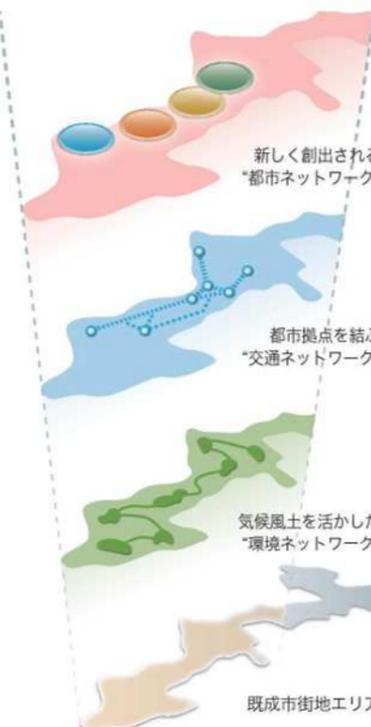
※LRT: Light Rail Transit

環境ネットワーク

豊かな亜熱帯庭園都市を育む

- 地域特性を生かした沖縄ならではの郷土の緑の再生
- 新都市の緑地や既存の緑地をLRT沿道の緑化でつなぎ、緑のネットワークを創出
- 沖縄の気候風土に合った、パッシブで自立的なエコ・スマートシティを構築

風土に根ざしたサステナブルな環境のしくみを導入し、郷土性豊かな庭園都市を形成します



中南部都市圏再編ビジョンの確立と基盤の先行着手

中長期ビジョンを確立し、基地返還を踏まえた交通インフラの先行整備を行い、街を育てていきます。



“4つの新都市拠点”を創る

6つの基地を4つの都市エリアに再編。
新しく生まれる都市と既成市街地が連携した、個性あふれる都市ネットワークを実現します。



沖縄ゲートシティ スポーツ・文化交流

緑豊かなウォーターフロントを開く—那覇港湾

貴重な都心部の水辺空間を活用した沖縄の玄関口“観光交流拠点”と、奥武山公園とが連携した“アジアのスポーツ交流拠点”

那覇市街地を快適な水辺都市空間へ

- 水辺エリアと那覇都心部を「緑の軸（国際通り）」と「緑の核（セントラルパークとトランジットパーク）」でつなぎ、水辺都市として那覇を新たに再生します。



大規模スポーツイベント拠点

- 奥武山公園とつながる国際基準の競技場「スポーツパーク」を整備し、アジア諸都市と連携するイベント等で、スポーツ・ツーリズムを促進します。(①)
- ボードウォークや緑陰広場を整備し、市民の健康増進を支援します。(②)

海辺立地を活かすレクリエーション機能

- 親水護岸やマリナー、シーフードマーケットを組み込んだ複合観光商業施設を整備します。(③)
- ツーリズムの拠点として、文化、産業、自然を紹介するビジターセンターを整備します。



沖縄エンターテイメントリゾート 産業・文化交流

アジアを感動と交易で結ぶ—牧港

既設文化施設と連携した“統合型エンターテイメントリゾート”と、“MICE・国際物流拠点”

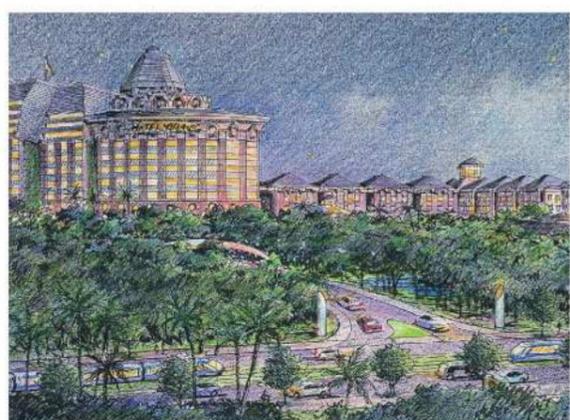
沖縄のエンターテイメント拠点

- 「国立劇場おきなわ」と最先端のホール等が連携し、自然溢れる統合型リゾートから、新しいエンターテイメントを発信します。
- 新・旧のMICE施設を連携させ、世界レベルのリゾートMICEを整備します。

※MICE：Meeting, Incentive, Convention, Exhibitionの4つのビジネス・セグメントの頭文字。

24時間対応のシー&エア国際物流拠点

- 機能性の高い空港や港湾施設と、新設するコンベンション施設が連携し、グローバルなビジネス拠点を形成します。



沖縄リージョナルコア 広域行政・伝統文化交流

新たな沖縄の中心をつくる—普天間

広域行政中枢機能や琉球ナショナルパーク、最先端の研究開発拠点の整備による自立する“沖縄の先導拠点”

島都機能をもつ水と緑の庭園都市

- 広域行政の中核機能を移転集約し、那覇市への一極集中を改善します。宜野湾市の行政サービス機能も集約します。
- 歴史資産を残し、緑に満ちあふれる都市ゾーニングによって、風格ある都市を醸成すると共に、基地周辺の都市環境の改善につなげます。

※島都(しまと)：島の首都を示す造語。

郷土の森となる琉球ナショナルパーク

- 沖縄固有の生態系の再生により、琉球時代の史跡の残る大規模森林公園を整備します。(①)
- 自然体験型のテーマガーデンや琉球文化のオープンシアター、博物館で沖縄の魅力を発信します。(②)

産業振興ナレッジコア

- 地元大学と連携した国際的研究開発機関や先端学術研究機関を誘致し、次世代ビジネスの基礎を築くナレッジコアとします。



沖縄コミュニティビレッジ 環境・暮らし交流

健“幸”ライフを生み出す—桑江南・瑞慶覧・第一桑江

高台立地と気候風土を活かし、国際色豊かで教育・医療の充実した“暮らし創造拠点”

既存インフラを活かした街づくり

- 米軍病院を核とした地域基幹病院を整備します。基地内の米大学をアジアキャンパスとして発展整備、また、全寮制インターナショナルスクールを創設し、次代のグローバル人材の育成拠点とします。

「ゆいまーる」のコミュニティづくり

- 子供から高齢者までみんなが主役となるコミュニティづくりと、スマートウェルネス産業（予防医療+農業+エコ）が連携した街づくり（健“幸”ライフ）をモデル化します。



6つの基地跡地全体のマスタープラン策定
公共施設や交通インフラの先行整備

街づくりの基本方針

社会情勢に対する柔軟な土地利用計画
既成市街地と共に都市圏を再編整備

街づくり方策への展開

利用目的に応じた手法により計画的街づくりを推進

- 先導プロジェクト用地や公共施設用地は公的セクターが土地先行取得を行い、機動的な街づくりを推進します。
- 資産活用・自己所有等の目的に応じて換地ゾーンを配分します。
- 集約換地や共同換地により、一定規模の開発街区を設定し、街づくり会社等によるまとまった規模の開発を誘導します。



例：定期借地権を利用した官民連携整備スキーム

基地跡地街づくりとリンクした既成市街地の環境整備

- 密集市街地や自然災害危険区域を“再編リンケージ地区”として指定し、地区内施設の基地跡地への移転を促進します。
- 移転後の跡地を、自然再生や再生可能エネルギー等のためのオープンスペースの種地として活用し、既成市街地を再編します。

タウンマネジメントにより街環境を維持向上

- 基地跡地の一定単位をベースに、街づくりの初期から、地権者・進出事業者・行政・市民が一体となった組織を組成し、プロモーションや環境の維持向上を図ります。

アジア諸国への展開

亜熱帯環境都市の街づくりノウハウをアジア諸国に輸出

官民連携のもと、公共交通システムと一体化した街づくりの先進的ノウハウを、アジア諸国の新都市整備、再開発に活用します。

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

LRTを軸に交通ネットワークを再構築し、活発な都市間交流を実現。沖縄の風景を感じる親しみやすい交通システムです。



LRTによる交通網の再構築

国道58号を活用してLRTを早期に実現

- 西海岸バイパス開通で通過交通量の分散が見込まれる国道58号を軸に走行空間を確保し、鉄軌道を低コストに導入します。
- 段階的に公共交通体系を整備します。第1期の旭橋～牧港の区間(8km)は、基地返還に関わらず早期に整備を実現します。中南部再編に先鞭をつけます。

既存交通体系と連携した基幹ネットワークの構築

- モノレールは屋富祖(牧港補給基地)と普天間へ延伸してLRTに結節し、高速バスは瑞慶覧で結節します。
- 主要駅にはパーク&ライド拠点を整備します。

急行と各停を組合せて迅速に目的地へ到達

- 急行と各駅停車を組合せて主要駅で乗換えを可能とし、さらに高頻度運行とすることで、長距離と短距離の両方の移動を円滑にします。



自動車台数減少による交通渋滞の解消

バイパス完成により、物流の半数がバイパスに流れ、乗用車の約半数+バスの3/4がLRTに置き換わると想定すると、朝夕ラッシュ時の1車線当たりの自動車台数は、半減すると予測されます。

[1時間当たり]	乗用車	バス	物流	現状
	2,340人 (1800台)	1,600人 (40台)	(400台)	1,100台/車線 [自動車2車線+バス1車線]
LRT	2,400人 (20本)	1,140人 (877台)	(200台)	提案: 544台/車線 [自動車・バス2車線+LRT1車線]

※LRT120人/3車両、乗用車1.3人/台、バス40人/台と仮定
※道路交通センサを参考(那覇市前島3丁目、浦添市中西1丁目の地点)

軌道整備と運営の分離

インフラの整備主体とLRTの運行主体を切り離れた運営方式により、持続可能な鉄軌道システムを構築します。



都市の発展基盤となるLRTの先行整備(第1期)

第1期/旭橋～牧港(約8km)の開通により、人口高密度エリアをカバーし、駅勢圏を充実させることで、生活を支える地域や施設へのアクセス性を高めます。



LRTが変えるライフスタイル

美ら海の風を感じるLRT

- 沖縄の美しい自然を感じて景色の中を走るLRTは、街並み景観の再整備、CO₂削減による環境改善など、自動車中心だったライフスタイルからの転換を促します。

LRTやモノレールを活用して新たな観光拠点めぐり。

朝の長時間運転から開放されて、LRTで快適に通勤。

LRT開業を契機にマイカーから高頻度定時性のLRT通勤に転換。最寄り駅までは、マイカーを利用し、パーク&ライド。

朝の長時間運転から開放されて、LRTで快適に通勤。

LRTに乗ってコザへ来るリピーターが増えた。

沖縄の特産物を使ったスローフードレストランをコザに開業。LRT開通に伴い、次々新しいお店がオープンし、商店街が活性化。

朝夕のLRT通学は友達と一緒に楽しい。

運行頻度の高いLRTを利用したLRT通学に変更。勉強の合間にはLRTに乗って、沿線沿いのモールで友達とショッピング。

仕事をリタイアしてから家にこもりがちだったが外出が増えた。

手頃な運賃かつ接続がスムーズな乗合タクシーとLRTにより行動範囲が広がり、各所で開かれる文化イベントに参加。

新しいLRTの4つの特長

統一料金システム
乗り換えに関わらないエリアごとの廉価な統一料金システムを導入

安全・高速
鉄輪式リニアを採用し、加減速と登坂性能に優れた安全な高速走行を実現

定時・高頻度運行
LRT通過と道路信号をシンクロさせ急行と各駅停車を合わせた定時・高頻度運行

バリアフリー
交通弱者がスムーズに乗降できる低床車両を採用

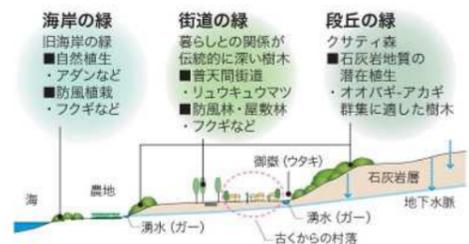
自然と共生する 亜熱帯庭園都市を育む

自然の生命力や循環のしくみを積極的に取り入れ、亜熱帯の自然と、人々の生活を融合。庭園のような景観をもつ低炭素都市を創出します。

沖縄の亜熱帯庭園都市を実現する3大要素

郷土の緑の再生

地域特性を生かした緑の再生により、沖縄ならではの豊かな景観シークエンスー海岸の緑、街道の緑、段丘の緑(クサティ森)ーを充実させます。



緑のネットワークの形成

基地跡地に緑地を創出。LRT沿線の緑化や河川斜面地の緑の再生を連続させることで、中南部をつなぐ緑のネットワークを形成します。



都市間を結ぶインフラネットワーク

基地跡地や既存市街地を結ぶインフラネットワークの構築により、防災力を備えた先進のスマートシティを実現し、自立性の向上と低炭素化を推進します。



市街地再編で創出する緑の環境ネットワークー那覇都心

「沖縄ゲートシティ」の整備と「緑の都市軸」の延伸によるウォーターフロントに開かれた新しい那覇中心市街地の再編



環境・防災拠点となる セントラルパークの創出

- 行政施設が移転した跡地は、水と緑に満ちた憩いの空間「セントラルパーク」として整備します。
- 目では捉えにくい敷地の「微地形」を分析し、沖縄の風土や環境を活かした庭園空間とします。
- セントラルパークには、再生可能エネルギーや地域の熱電供給センターを整備し、災害時のエネルギー供給機能を備えることで、那覇市の防災性能の向上に寄与します。



再生可能エネルギー：太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱などの、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギー。

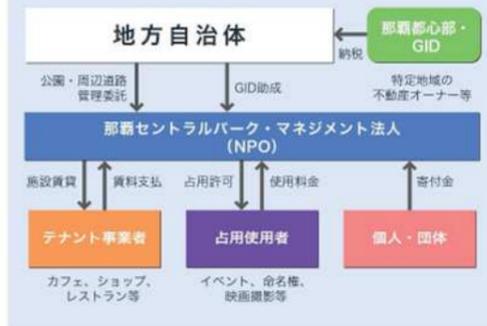
市街地再編と「緑の都市軸」の創生

- 国際通りを那覇港湾に延伸することで、都心とウォーターフロントを繋ぐ緑の都市軸を形成します。
- 緑の都市軸は、セントラルパークや緑のトランジットパーク(旭橋バスターミナルとLRTの新しい交通結節点)など緑の拠点をつなぎます。
- 都市軸としての国際通りは歩行者優先とし、豊かな緑陰空間の賑わいの街路とします。



環境のマネジメント手法 GID制度による環境管理・運営

那覇都心部の特定地域を環境改善地域(Green Improvement District)と位置付け、地方自治体の課税自主権制度に基づき税を徴収し、パーク及び周辺地区の緑の創出、環境改善に充当します。



自然の恵みを活かす「水と緑の庭園都市」ー普天間

「緑のコモンスペース」から広がる「グリーンデッキ」と建物群、それらを包む「郷土の森」開発に合わせて立体的に緑が増殖する庭園都市 (NO NET LOSS)



水循環の保全

水源涵養林の再生や溜池により地下水を涵養し、緑のコリドーを形成することで地下水脈を保全します。



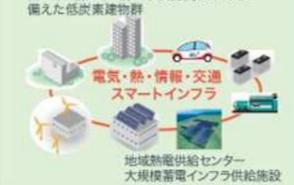
緑の立体的な連続

郷土の森〜グリーンデッキ〜コモンスペースの緑は、丘陵部から海岸線の連続空間を形成し、生態系の遷移帯(エコトーン)となります。



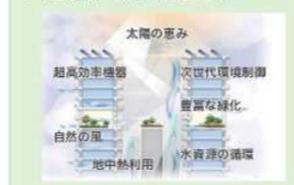
スマートインフラ

次世代社会を支えるスマートインフラを構築し、都市全体でエネルギーの最適化を図ります。



エコスマート建物群

立地環境に適したパッシブ建築手法と先進環境配慮技術を導入し、低炭素、自立的なエコスマート建物群を創出します。



郷土の森

郷土の森(琉球ナショナルパーク)に伝統的な村落を復元し、琉球の自然・歴史・文化を発信する象徴的な公園として整備します。

